

札幌トレセン大会報告書

2018/12/4

(一社)札幌地区サッカー協会 4種技術委員会(鈴木 健士)

1、大会名・日程 ヴァン+秋季交流大会U-10 2018年11月23日～25日 本栖湖スポーツセンター
2、参加選手()内は所属チーム 榎本 悠陽(札幌緑) 宮本 貫生(石狩FC) 田村 歩夢(SSS札幌)猪谷 榎大(上江別)青木 琥太郎(藻南) 吉田 真信(FC DENOVA) 松本 悠音(JSN) 佐々木 瑛汰、西田 拓人(One Eight FC) 天野 永琉、猪俣 歩武、佐々木 怜、澤田 士道、白髭 瑛仁、鈴木 凜太、千葉 希典、松本 大虎、 宮崎 優宇 (北海道コンサドーレ札幌) 計18名
3、引率者名 浅沼 達也、鈴木 健士(北海道コンサドーレ札幌) 櫻井 健愛(SSS札幌) 佐藤 佳亮(FC DENOVA)
4、大会結果 23日 vs ヴァンフォーレ甲府 2-2 (松本 大、天野) vs レジスタFC 1-2 (猪谷) vs Wings 0-4 vs 大山田SSS 4-1 (松本 大×4) vs ファナティコス 1-3 (松本 大) 24日 vs 千葉県トレセン 0-0 vs RISE 1-0 (宮本) vs 大山田SSS 1-0 (猪谷) vs 横浜F・マリノスプライマリー 0-0 vs バディーSC 2-0 (松本 大、猪谷) 25日 vs 横浜F・マリノスプライマリー 0-1 vs レジスタFC 1-4 (鈴木) vs 浙江緑城 1-3 (千葉)
5、成果と課題 成果 ・球際の強さ →チーム名や相手の上手さ関係なく、逃げずにボールに対して体をぶつけて奪いに行く、対応する。また、ルーズボールに対しての反応は常にアラートな状態だった。 ・チームでの守備 →チーム全体で取りどころを共有した中で奪いに行っていた。ボールを繋がれる相手に対しては1stDFの所でコースを限定して次の選手が連動して奪いに行っていた。 ・ポジショニング →どの相手に対してもボールを動かして全員が関わることにトライしていた。その中で、幅と厚みを上手く使い攻撃出来る回数が増えた。MFは間に顔を出し引き出す、SBはボールサイドであれば高い位置で関わる。FWはタイミングよく外に流れて引き出す等。

課題

・ 様々なスタイルのチームへの対応

→3-3-1・2-4-1・4-1-2・3-2-2 など様々なチームスタイルの相手に対しての頭の切り替えが出来ず、対応がほとんどできずに負けた試合では試合開始 10 分以内に失点する事が多かった。慣れてからは失点することはなく、試合の入り方や頭の切り替え、対応を判断できる事が必要。

・ 蹴られる相手の対応

→前にボールを放り込んでくるチームには、1stDF がアプローチが遅れていけなく、蹴らせない事ができない。また、DF ラインも準備が遅れて対応できない。放り込まれるボールにカバーも遅れて収められる為に攻め込まれる時間が多かった。

・ 攻撃時の判断

→相手が中央に集結しているため、幅を上手く使おうとしてもオンの選手がボールを受ける前の準備が悪く、縦に速くなってしまふ事が多かった。幅を使う判断を持っておく、縦パスしようとしたけど、相手にパスコースを消されたら外へ判断を変えられるなどのプレーが少なかった。

→オンの選手がボールタッチが多く、速攻できるチャンスも判断できずに遅攻になってしまいチャンスを活かすきれない、相手関係なしに得意な足しか使えない為、判断できない状況が多かった。

・ 自己主張

→選手同士コミュニケーションを取る事が少なかった。いつどこで欲しい、自分のプレーをするためにどうしたいのか、味方に何をさせたいのかをコミュニケーションを取ることが少なかった。

